

昭和 58 年 5 月

八 月 踊 り 唄 部 集 編

名瀬勝唄愛好家会

名瀬勝 八月踊り

序

今だ自然の残った名瀬勝に育ち、自然を愛し、この美しい故里に幾世紀の昔から、唄い次ぎ踊りつがれて来た。この伝統的庶民芸術を忘れることなく、後世まで伝え教えて残して行く事は、私達現時点での親ほじからの教えだと思えます。

最近ほ、親ほじが残して下さいました八月踊りの火も下火になりつつありますので、此処に八月踊りの発展のために、お年寄りの方々の唄を参考に致し、小冊子にまとめて発行いたしました。

書き落しの点もあるかと存じますが、愛好家の皆様に活用頂ければ嬉しく存じます。

昭和五十八年五月十九日

目次

第一部 基本歌詞

①	おぼこり	5
②	そうしられ	5
③	やまのぼてかばさ	6
④	今の踊り	6
⑤	赤木名観音	7
⑥	あいすまちな	7
⑦	おせはだり	7
⑧	いさだ	8
⑨	手ふりふり	8
⑩	でんぬできし木	9
⑪	浜千鳥	9
⑫	前浜ゆりがちんぐわ	10
⑬	喜界湾どまり	10
⑭	三山胡弓	11

第二部 共通歌詞

③	対応唄	17
②	教訓唄	16
①	祝い唄	15
②⑥	ちくりんぐわ	14
②⑤	諸鈍長浜	14
②④	いちぶとまあぐみ	14
②③	うらとみ	13
②②	西ぬ実久	13
②①	しゅんかねくわ	13
②①	焼酎ぬ花酒	12
①⑨	塩道長浜	12
①⑧	海ぬ笹草	12
①⑦	うぶんかなはだ	12
①⑥	でえんまちじよ	11
①⑤	赤ん村くわ	11

第三部 あらし

④	かな唄	――	20
⑤	あまくさ	――	24

①	あらしの正常歌詞	――	26
---	----------	----	----

凡例

本文の歌詞中、「」の部分は繰返して唄う。

（ ）の部分は相手方のはやし

第一部 基本歌詞

① おぼこり

ハレおぼこりぬ やよろ ハレかふさな
ハ―ヌ（やよろ ハレ オーセ オーセ）
ハレ来年ぬ稲がなし
ハレ やね 来年ぬ稲がなし
ハレ あぶしまくら ヨーホンノ
ハレ 来年ぬ稲がなし（ハレ オーセ オーセ）
ハレ 来年ぬ稲がなし
ハレ あぶしまくら ヨーホンノ

② そうしられ

- 一、 そうしられや 祝ちきておせろ、ハレ 殿内どのちあみされや
ゆうなくとにヨーホンノ
「アレとのちあみ（ハラ オーセ オーセ）殿内あみされや
ゆうなくとにヨーホンノ」
- 二、 殿内あみされや 果報かふな生れやしが、ハレ 米倉よねくらや前なんだち
床や腰くしやてヨーホンノ
「アレよねぐらや（ハラ オーセ オーセ）米倉や前なんだち
床や腰やてヨーホンノ」
- 三、 今年世くとしゆや一倉ちゅくら、来年ぬ世やねや二倉たくらハレ 再来年みつがゆや三倉クラ
三倉たてろヨーホンノ
「アレみつがゆや（ハラ オーセ オーセ）みつが世や三倉クラ
三倉たてろヨーホンノ」
- 四、 東からもゆるり西からもゆるり、ハレ 殿内あみされや
ゆるりゆるりヨーホンノ
「アレとのちあみ（ハラ オーセ オーセ）
殿内あみされやゆるりゆるりヨーホンノ」

③ やまのぼてかばさ

一、やまのぼてかばさ 餅もちがさぬかばさ ヤハレ むちがさぬかばさ
(ヤハレ むちがさぬかさば)
里さとうりてかばさ 十七八めらべ ヤハレ 十七八めらべ

二、十七八ごろや 夜ぬうくれど待ちゆる ヤハレ ゆぬうくれどまちゆる
(ヤハレ ゆぬうくれどまちゆる)
いちが夜ぬくれて吾わ自由じゆうまたなりゆる ヤハレ 吾わ自由じゆうまたなりゆる
ヤハレ 吾自由じゆうまたなりゆる

④ 今の踊り

一、今の踊りは踊り子がそろた ソラ
踊り習なわば今習なえ ヨイコラセ
ヨイコラセノ花コラ調子ヨイコラセー

二、さんだまけまけ大根だいこん種ねおろせ ソラ
おろせ育ててやせさかな ヨイコラセ
ヨイコラセノ花コラ調子ヨイコラセー

⑤ 赤木名観音

赤木名観音ちば西にしまた又またに ナオロ
ナオロナオロちゅんぬ 音ばかり
ハレサ ヨイサ ヨイ

⑥ あいすまちな

一、あいすまちなや
はびらなあて とびゆりよ ハレ
うりがいさどもや はびら押せが
ヤソラ はびら おせが

二、とびゆる綾あやはびら
うち向かて とびゆりよ ハレ
うち向かてとびゆんや 庭花たてよ
ヤソラ 庭花たよて

⑦ おせはだり

一、おせはだりごおちや 何故ぬがいや汝どうや

毒食かだる ヒヤヌガへー
「アレ吾が思ふるくとや 自由や
ならぬ ヤヌ ヒヤヌガへー」

二、自由ならばならじ 汝義やぎ立たば
又立たじ ヒヤヌガへー
「アレさきじ働らしゆて 吾恥わはじ
きらち ヤヌ ヒヤヌガへー」

⑧ いさだ

一、東ぬ古志なんど 苦水ぬ にがむじ

あんち ヤレコレ 夫ふるる女 うなぐ

うまじ浴みそ ヤラへ ヤラへ

二、夫もふられぬ 姑もふれられぬ とじ

ヤレコレ 吾のや 童あてど わらふ

姑ばふたる ヤラへ ヤラへ

三、夫ふさも 一時妻ふさも ちゆとま

一時 ヤレコレ あやはじき ふさや

命かぎり ヤラへ ヤラへ

四、いさだちばいさだ 今年がりぬ くとし

いさだ ヤレコレ 来年ぬ八月や やぬ

吾きやど めらべ ヤラへ ヤラへ

⑨ 手ふりふり

手ふりふり習て なら かみ習て習てよ

「ハレ かみ習て習わば

まちげぬらぬ ヤソラ」

⑩ でんぬできし木

一、でんぬできし木や花ぬ下かきゆり

「うりが かぎかむば

かまちぬ病みゆり ウマデソーラ」

二、かまちんちやさやむば枕とてよせて

「わたぬちやさやむば

ねんごろ呼ばそ ウマデソーラ」

三、ねんごろ家妻とやでるが又かなさんが

「世帯ぬくと思れば

やとじ かなさ ウマデソーラ」

⑪ 浜千鳥

一、浜千鳥 ちぞらよ 鳴くなちば千鳥よ

「ハレなくとくと あんまがよ
面影ぬ立ちゆんど」

二、あんま面影やよ 時々ど立ちゆるよ

「ハレ吾かな おもかげやよ
朝夕また立ちゆりよ」

⑫ 前浜ゆりがちんぐわ

一、前浜ゆりんがちんぐわ

いい見そろさや かばさ

「てぐすくわぬねだな めやくさべろ」

二、浜ぐだり歩きば

すこぬくわぬ ちゆぼれ

「あみしやれやむたぬ めやくさべろ」

三、浜ぐだり歩きば

わらべぬ ちゆぼれ

「檜玉やむたぬ めやくさべろ」

⑬ 喜界湾どまり

一、喜界湾どまり 水くがれ汐くがれ取りゆり

アレ汐くがれ取りゆる

山田平田いきゆり オセ ヤーヨンノ

二、喜界や六曲り 大島や七曲り

徳永部 与論や

那覇ぬ地内 オセ ヤーヨンノ

⑭ 三山胡弓

一、三山ぬ胡弓くわエーヌハヌ

大和がりとよむ ネーオセ きもちやげへ

「きもちやげぬかなや やど閉じんそれ

ネーオセ きもちやげ エーエ ホンノイ

二、いち番ぬ鶏ば エーヌハヌ

二番ぬとりち思て ネーオセ きもちやげや

「きもちやげぬかなば 夜なか戻し

ネーオセ きもちやげ エーエ ホンノイ

⑮ 赤ん村くわ

あかんむらくわくわや 雪村ぬはぐきよ

「ハレ気病んめになりば 夜はち人見ちヤソラ」

きやんむなとて あんまふりゆむんぬ ゆたば頼りぬうすりぬうすり

医者頼りぬうすり ゆた頼りぬうすり

吾んが想とんかなば呼ばちたぼれ

⑯ でえまちじよ

あさろぎ忘れたや ヨイヨイ

でえまちじよが宿に

「さきじ掘るとき思いだち」

①7 うぶんかなはだ

うぶんかなはだはたや ヤレコレ

七ななむぐり むぐてよ

「ハレ としぬ とめばかり 米直よねなおとみそ ヤソラ」

①8 海ぬ笹草

海ぬうみぬ笹草あしはくさや汐しほぬ満みてばなびこ

「わらべあて あてどよ 庭に草もらすん」

①9 塩道長浜

塩道しゆみち長浜ながはまや ハーレ

「わらべぬ 泣きそしら」

うりや誰たか 故ゆいかや ハーレ

「けさまち汗肌故さぬ」

②0 焼酎ぬ花酒

焼酎ちゆぬ花酒はなしゆや エヤヨー 飲めば人ちゆふやす

ハレ ヤオセイ ヤオセイ

吾わのや 何ぬばふらす ハレ かなどふらす

ハレ ヘイヨー ホーサメ サスガデー

②1 しゅんかねくわ

しゅんかねくわが節かじや 吾わくなちおけば

「三味線む持ちいもれ ちけておしろ

サーサしゅんがねくわ」

②2 西ぬ実久

一、西ぬ仲原主なかばらしゆやよ 恥なかげるきりて仲原

「うりがしゅたる役や 佐和伊久に取られて」

二、佐和伊久さわいくや大和 松常まつじよくわや大島

「黒汐くろしほふざめ とてよ 思ぬ 思ぬ くちさ」

三、西ぬ実久なんてよ 大和舟ぬ割れて

「姿 とれれ とれれ う金 く金 とめろ」

②3 うらとみ

うらとみ うらとみ 「如何いみやしが汝いぢやや踊りゆる」

(いきやしがいや うどりゆる)

「左足 さげて 右足 ももいして」

②④ いちぶとまあぐみ

いちぶとまあぐみや ソレ

杉^しぬ橋かけて 橋ぬくげればうとるさ

サヌヨイヨイ

くげれば橋ぬ 橋ぬくげればうとるさ

サヌソレヨイヨイ

対応唄

いちぶちともや きやつかなんばーり

ちよいと生れたんが まくみぼうくわ

やいやちよいとさあた しられた

ヤレコレチヨイトナ

②⑤ 諸鈍長浜

しよどん長浜ぬ 如何長さあても 池地長浜ぬ上やきらぬ

ヤヌ ヒヤヌガ フェー

②⑥ ちくりんぐわ

ちくりんぐわぬ節^{せし}やヨハレ 吾がくなちうけば クヌヤヌヤーヌ

ヒヤヌガヤーヌ テンテン ヤーテンテン

「ヒヤヌガテンテン ヤーテンテン」

三味線^む持ちいもれ ヨハレ ちけてまたおしろ クヌヤタヤーヌ

ヒヤヌガヤーヌ テンテン ヤーテンテン

ヒヤヌガテンテン ヤーテンテン

第二部 共通歌詞

① 祝い唄

(普通)

今日ぬほこらさや いちよりもまさり
いちもこのごとにあらしたぼれ

(敬老)

白髪年方や 床ぬ間に坐して
吾のや膝さがて拝でおせろ

(新築)

あら屋敷好で 神杉ば植えて
神杉ぬ上に 鶴ぬ舞ゆり

(婚礼)

親二人なかに蕾どたる花ぬ
今日ぬよかる日に咲ちゆりきよらさ

(成人)

こん殿内 床に松竹ばいけて
竹ぬふしぶし 祝いこめろ

(出産)

大木めて跡や若木めてちぎゆり
親祖あとちぎゆる 初ぬ思くわ

② 教訓歌

一、山ぬ木ぬ高さ風に憎まりゆり
きも高さ持てば外が憎む

二、かまくらぬ花や手ぬ先に染めろ
親ぬ教訓や胸ゆしぐとに染めろ

三、親ぬ教訓や吾わが身上みぬうぬ宝よ
耳にきき分けて胸にとめろ

四、姑しとぬ教訓や吾身わみぬう上ちらぬ辛さよ
あやはじき辛さ胸にこねろ

五、玉黄金 親や なしどなさるる
肝だまし添えてなしやならぬ

六、下手からど習て すぐれてやいきゆる
すぐれぬ思て 思案とるな

七、ろかじ定めてど舟や走らする
寸法はじらすな肝ぬ手綱

八、皿ぬ水だもそ 吹けば波立ちゆり
わが悪さあてど 外や荒れる

③ 対応歌

○汝が初あらぬ吾が初あらぬ

昔ぬ親ほじめ真似どしやおる

○昔ぬ親ほじめ島だてぬ悪さ

かなが島吾島 間切り分かち

○いこいにしりば後ぬ陰ぬ立ちゆり

居る居ろにしりば義理ぬとどり

○義理んちめられて 虫だもそいきゆり

声のやれやちよま繁くたぼれ

○坐ちゆて唄しりば股だるさやしが

で吾がほり立てて踊てとよも

○これほどぬ踊り組み立ててからにや

夜ぬ明けて照らぬ上るまでも

○女生れとて唄知らぬ女

鶏にたとえりば 巢もろ卵

○男生れとて唄知らぬ男

鶏にたとえりば しもろ□子

○吾かや今がりや唄ぬ道や知らぬ

さき生れぬそしら教してたぼれ

○先まれて居ても 後まれて居ても

唄や吾が胸ぬしくみさだめ

○今日ぬほこらさや何時よりもまさり
何時も今日如にあらちたぼれ
○何時も今日如にあれば たまこがね
のちもこのしのき 若へ取らが

○唄はえり はえり 節はえり はえり
唄ぬ はえりばる 手打ちはえる
○唄かわし かわし 節かわし かわし
唄ぬ かわればる 手打ちかわる

○白髪年方や 床ぬ前おせて
吾ぬ下さがてうさげ拝も

○年や取て行きゆり 先やさだまらぬ
あれ海に浮つる舟が如し

○八月やなりゆうり 振袖や無らぬ
あやたすたみそで 貸らちたぼれ
○あやたすたみそが 貸しばるかりゆる
貸さぬやしが 貸りがなりゆんぬ

○ちぢみくやや 打てば馬ぬ皮る打つる
ままさ子や 打ちば百名 立つり
○打ちば打ちぶさや 夜なりするちぢみ
寄れば寄りぶさや かなぬおそば

○汝^やが打つる鼓^{ちぢみ} 一里^やがりとよむ

一里から吾のや きちどしちやる

○打てば打ちぶさや 夜鳴^ゆりしゆる鼓

寄りばゆりぶさぬ 里がうすば

○遊び好き吾のや遊ぶ具^ぐくわぬ居らぬ

島ぬ尻口じ とめてあしほ

○遊べどいいちやる 踊れどいいちゆる

遊ぶときやちよま解^{いと}けて遊ぶ

○天ぬ白雲や風連れていきゆり

吾のや何ば連れるかなど連れる

○夜明け白雲ぬいき別れ見れば

かなと生別れあれがごと

○想^{おも}てさえおれば後先どなりゆり

節^{せち}や水車めぐり会ゆる

○節待^{せちま}としりば互^{たひ}に年ゆるり

年ゆらぬうちに あらちたばれ

○別れていきゆり 何ば片身らきゆり

汗肌ぬ手さじ うりど片身

○汗肌ぬ手さじ受け取てからにや

うしろ軽々と いもれそしら

④ かな歌

一、 う十五夜ぬう月神清らさ照りゆり

かなが門しよに立てばくもてたほれ

二、 かな待ちゆる夜や西やどば開けて

夜嵐やしげく かなやもらぬ

三、 月と眺めても星と眺めても

肌はだ染すだるかなや 忘れならぬ

四、 吾のやうらきりて 浜うりて見れば

白波や立ちゆり かなやもらぬ

五、 夜中ゆ三星みっほしや 見ちやる人や居らぬ

吾のがかな忍でいじど見ちやる

六、 節せちとしばさしや 七日ふざめ

どんがかねさるや 五日ふざめ

七、 沖走る舟や かくれ瀬しど仇かたき

かな待つる夜ゆるや どしど仇

八、 うわなり妨げや がじゅまるぬはぐさ

外よそが妨げや するなよ吾か

九、 お十五夜ぬお月神清かみぎよと照てるり

かなが門じょうに立たてば雲くもてたぼれ

十、 親や年ゆるり 吾きやや花咲きゆり

親ぬ年ゆりば 世話どやきゆる

十一、 唄しらば 中きらちしるな

中きらちしると よそが笑ふ

十二、 八月の節せちや ゆりもどりゆりもどり

吾わが二十頃や もどりならぬ

十三、 これ程ほどぬ 踊おどり組立くみたててからや

夜が明けて てらぬ上あががるまで

十四、 今日けふは 此処こゝ寄よらて色々あしぬ遊び

明日あしたや島しまもどて いいさたそうろう

十五、 海ぬささ草や 汐ぬ満てばなびく

十七八めらべ踊りば なびく

十六、 遊び好き吾のや 止めて止めららぬ

島ぬ尻口で 止めて遊ぼう

十七、 島やどの島も かわりぎやめらぬ

水にひかされて 言葉る変る

十八、 はりご 川水に石浮けて見ちやみ

貴男や吾が心 探ぐて見ちやぬ

十九、 いきはてぬどんが 打ちはてぬ鼓

取りもともならぬ 来年ぬこうねしだ

二十、 花ぞめにふふれて わらべどしかけて

花ぬさそりんや 吾こと想れ

二一、 しちとしばさしや 七日ふぎめりゆり

どんがかぬさるや 五日ふぎめ

二三、 一番鳥は 二番鳥ち思て

きもちやげぬ かなば夜中もどち

二三、 旅や浜宿り 草ぬねるまくら

寝ても忘れぬ 吾が玉こがね

二四、 別れてや行きゆり 何がかたつみうきうる

汗肌ぬ てのぎうきうるかたみ

二五、 伊津部立神に あや手のぎ下げて

うっちゃげればでくま 引きば伊津部

二六、 天ぬ白雲に 縄かけてぬうすり

およばんかなに 手さちぬうすり

二七、 笠利ぬはぎ島や あやてらぬてるり

吾がきよら島や まあてらてるり

二八、 かな待つる夜や 西戸ば開けて

夜あらしやしぎく かなやいもらん

二九、 浜打はまうつる波や 打ちかさべ打ちかさべ

大和ぬ殿様や ゆみそかさべ

三十、 大和やまと殿様ぬよ いかしたあ高さあても

お月様てらくもがなしぬ 下さあるなるり

三一、 大和やまと旅たびすれば 月日ゆうり待つり

くずが旅すれば ぬうゆで待つり

⑤ あま く さ

① あまぬあまさ まきだす時は

たじて いそかな 踊りきよらさ

② 様はいくつか 二十三、か四、か

いつもかわらぬ 二十二、三

③ 様と寝た夜は 枕まくらはいらぬ

互たがい違ちがいぬ うで枕

④ あんま馬鹿馬鹿 晩茶ばんちやにほれて

秋名舟あきなふなどんに 吾わばくれて

⑤ 十七、八頃あおばあたばこの煙草

早くつまなきや 虫が付く

⑥ 踊り好きなら早はよ 出て踊れ

踊りはぐれて 踊おどららぬ

⑦ 好きなお方と 道連れみちづすれば

道ぬかれぐさ枯草 花が咲く

⑧ 想ってかよえば 千里も一里

会づもどれば 元の一里

⑨ 立てばさくやく 座すわればぼたん

歩あゆむ姿すがたはゆりの花

⑩ 此処ここはしげとみ 越こゆれば吉野

吉野越せば 鹿兒島

⑪ 此処ここの屋敷やしきは 祝いわいの屋敷やしき

こがね花咲く 金がる

⑫ 貴男あなた私わたしに七ほれ 八ほれ

今度ほれたら 命がけ

⑬ 私は貴男に七ほれ 八ほれ

今度ほれたら 命がけ

⑭ 長い刃なが なたなは 差用さしようがござる

後うしろ下れば 前上まへあがる

⑮ 君と僕とは すずりと墨よ

すればする程こゆ 濃こゆくなる

⑯ 貴方あなた百まで 私わたしは九十九まで

友ともに白髪しろかみが 生はえるまで

第三部 あらし

(あらしの正常歌詞)

- 一、汝^なれもあらそげに、吾^われもあらそげに
互^{たけ}にあらそげに ゆかりそしら
- 二、ゆかりゆぬ節^{せち}や 夜明^{あし}かさに遊^{あし}ほ
かさね朝^あしかま ほらかでるか
- 三、ほらかでぬそれや 寝^ねほよせらいもれ
寝^なかざせらときや 汝^なくと思^めざそ
- 四、寝^ねかざせらほど 吾^わが生^なれておれば
後^えもこのしのき 吾^わが栄^え取る
- 五、このいき島^{しま}に 吾^わが筆^{ふで}染^そめれば
露^{ちゆ}ほどぬ里^りに 知^ちらしぶさぬ
- 六、露^{ちゆ}ほどぬ里^りや 知^ちらしば知^ちりゆる
知^ちらさだやしが 聞^ききがなりゆめ
- 七、汝^なかざまこれぬ 吾^わかどさげしゆんち
やけうしぬごとに まげて見^みしろ
- 八、やけうしぬごとに 曲^まげらればまげれ
汝^なかに曲^まげられて 生^なきか死^しにか

